




第6学年 理科 「水溶液の秘密を探ろう ～水溶液の性質とはたらき～」

学習指導者 竹森 大介

<p>主張点</p>	<p>5種類の水溶液から身の回りの水溶液に広げて調べる時間を位置付け、これまでの学びを生かしながら、身の回りで水溶液の性質や働きが利用されていることを捉えられるようにしました。</p>
<p>前時までの学び</p>	<p>子供たちは、水溶液に何が溶けているのかに興味をもち、リトマス紙、BTB溶液を用いて5種類の水溶液について性質を調べてきました。そこから、身の回りの物についても液性を調べたいと考え、学習課題を設定しました。前時、自分の班で調べたい水溶液を決め、それぞれの液性について予想を立てました。</p>
<p>〈課題設定以前〉 1 学習課題を確認する。</p>	<p>水溶液の学びボードを示しながら、5種類の水溶液の性質は分かっていること、身の回りの水溶液を調べることのよさを全体で話し合い、学習課題設定の理由を確認しました。</p> <p>身の回りの水溶液の性質が分かると、その水溶液の使い方が分かると思うよ。</p> 
<p>〈課題解決中〉 2 班で水溶液について調べる。 3 他の班と交流しながら、水溶液の分類を確かめる。 4 全体で、水溶液の液性の傾向や場所等とのつながりについて話し合う。</p>	<p>学習課題：身の回りの水溶液はどう分類できるのだろう (トイレ用洗剤、手洗い石けん、消毒液、香水、入浴剤、サイダー、レモン汁など14種類)</p> <p>まず、班で予想を確認し、BTB溶液を使って、水溶液を調べていきました。そして他の班の結果や考察を自由に見に行ってもよい時間、<u>うろうろ確認タイム</u>を位置付けました。子供たちは同じ水溶液を調べている班に確認に行ったり、自分の調べていない水溶液が気になって見に行ったり、目的をもって他の班と交流していました。その際、実際の水溶液や<u>予想—結果—考察ボード</u>を見ながら結果を確認していました。その後、全体で考察を話し合いました。「飲み物は酸性が多い」「洗剤は使い道で性質が違う」などと考察を深めていきました。</p> <p>あれ。食器用洗剤は酸性なのに、食洗機用の洗剤はアルカリ性だよ。どうしてかな。</p> <p>お酢は予想通り酸性だ。どの班を見ても同じだから間違いないよ。</p> 
<p>〈課題解決後〉 5 学習の振り返りをする。</p>	<p>「自分の考えの変容」「参考になった友達の意見」「生活とつないで」「次にしたいこと」の観点を手がかりに、学習の振り返りをノートに記述させる時間、<u>パワーUPタイム</u>を設定しました。「体にふれるものは弱酸性など、考えて作られている」「生活の中でも性質を見て使いたい」などと学習を振り返っていました。</p> <p>次は同じ物でもメーカーが違うと性質が違うのかや混ぜると性質が変わるのかも調べたい。</p> 
<p>考察</p>	<p>子供たちは、自分の班の結果と他の班の結果を比べるという目的意識をもって他の班を見に行っていた。さらに、一度班で考察をまとめておいて、その考察を基に他の班と話し合えると、より考察が深まったと考えられる。</p>